

衆院選を解く

知日派の目

4

衆院選で安倍晋三首相は前倒し選挙という賭けに勝った。党内の立場を強固にし、来年の自民党総裁選で3選を決め戦後最長の政権になるとみている。北朝鮮情勢など世界的に不安定な状況が続く中、安定した力を維持していくことは重要で、その点で安倍氏は評価されるべきだ。

英王立国際問題研究所

ジョン・ニルソンライト上級研究員



高い安定性、変化嫌う

衆院選では反対論を含め議論する必要がある問題が多くあるのに、有権者は政治から距離を置き、政府に不満をぶつけることに興味を失ったように見えた。変化より安定を望んだ結果だが、野党分裂で政権交代の選択肢がなかったのも一因だ。

注目される憲法改正は国民の分断など大きな変化を生む。安倍氏は2020年の改正憲法施行を目指すとしているが、国民を説得する必要がある。結果は改憲派と護憲派の運動の広がりにかかっている。

今日英両国は互いが協力関係の発展に強い興味を示している。英国のメイ政権は日本との防衛協力を前進させたいし、安倍政権は自衛隊の活動範囲を拡大させたい。両者の相性はいい。ただ英国は欧州連合(EU)離脱問題を抱えている。英国の国際的な影響力の低下は免れず、日英間の貿易への悪影響など両国の関係に変化をもたらすだろう。

(ロンドン共同)